専攻分野/コース （英文名）	小児科学 （ Paediatrics ）
研究指導教員	清水　直樹

研究・教育の概略	小児科学とは、小児の保健・健康を研究することを基礎とし、種々の疾病を有する患児の診断・治療を研究する臨床科学である。小児科学を研究するためには、小児の正常な発育・発達・栄養はじめ各種疾病の病理・病態の十分な見識に加え、高度化した医療にともなう侵襲的医療機器が装着された特異な状態における病態生理をも、正しく理解しようとする姿勢が欠かせない。複雑化する医療のなかで *Children Centered* の立場からの生命倫理観や、*Advocacy* の素養も求められる。臨床としては、小児救急・集中治療の急性期から始まり、在宅・緩和・移行期医療の慢性期までを見すえた小児総合診療の指向性を基礎として、臓器系統別専門の道を志すことになる。研究としては、*Breakthrough* となりうる新規性の高い研究を、臨床現場からの動機づけをもって遂行し、成果を論文として纏め上げる課程を通じて自立的な研究遂行能力を涵養し、後続の研究指導ができるようになることを目標とする。
研究項目	1. 急性期：（集中治療）ヘリウムと超高頻度振動換気、ECMO/蘇生研究、エクソーム死因検索、搬送遠隔医療電子化、（新生児）早産低出生体重児の薬物動態と生理的パラメータ研究、生体情報ビッグデータ解析、（循環器）妊娠中投薬による心筋収縮蛋白と小胞体構成蛋白発現変化、新生児左房機能、川崎病新規治療 2. 神経遺伝：長時間ビデオ脳波検査の有用性、抗てんかん薬の血中濃度に関する研究 3. 感染免疫：住民健康改善に資するエビデンス創出を目指した多地域コホート研究（LIFE study）、Baked egg を用いた食物アレルギー早期介入研究 4. 血液腫瘍：血友病患者の QOL の実態調査、ステロイドの抗血栓性の機序解明、FVlla の滑膜炎抑制効果、小児リンパ腫に対する治療診断・バイオマーカー開発 5. 総合：（救急、虐待、在宅、移行期、緩和）小児救急・災害時 AI トリアージ、小児外傷鎮静、虐待予測診断、（腎臓・消化器・代謝・内分泌）各領域に関する研究
準備学習（予習・復習）	小児科学は非常に幅の広い学問分野である。対象は新生児から学童期・思春期にまで及んでいる。精神、運動面で発達変化していくことが大きな特徴であり、昨今は成人への移行期医療も大きな課題となりつつある。小児科を学ぶ準備段階として、正常な新生児から学童期にわたる発育・発達を、学習しておくことが前提である。さらに、高度医療機器・在宅緩和医療・生命倫理など、幅広い知見を柔軟に身につける姿勢を養うことが大切である。

2026 年度講義シラバス（１）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	新生児学Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	北東　功	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1 単位（前期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	正常新生児の適応過程の理解				
講義計画	正常新生児症例を通して出生後の適応生理を理解し、実際に個々の管理法を体得する。 母親の泌乳過程と心理を理解し、よりよいコミュニケーション法を体得する。				
達成目標	1. 正常新生児の適応過程を説明できる。 2. 新生児低血糖、新生児黄疸、水分電解質、酸-塩基平衡管理法を計画できる。 3. 母乳育児支援のしくみを説明できる。				
教科書・参考書	母乳育児成功のための10カ条のエビデンス				
準備学習(予習・復習・時間)	正常新生児の基礎知識を学んでおく。 1 時間				
成績評価法	境界領域の症例シミュレーションに基づく討議内容の評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	新生児学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　　(出席㊞)
1	新生児の呼吸適応・経腟分娩での呼吸適応
2	帝王切開での呼吸適応・新生児一過性多呼吸
3	新生児の循環適応・動脈管の意義・卵円孔の意義
4	胎盤循環から肺循環へ・新生児特発性肺高血圧症
5	新生児体温調節・分娩室での体温低下
6	出生直後の skin to skin
7	新生児の血液・貧血と多血
8	母体出血による影響
9	新生児のエネルギー代謝・新生児低血糖のしくみ・新生児低血糖への対処
10	新生児黄疸・光線療法の適応
11	腸肝循環の理解
12	新生児飢餓と吸啜意欲・体重減少と脱水の鑑別
13	NRP にもとづく新生児蘇生法・新生児仮死の病態理解
14	母乳栄養・完全母乳栄養と母子同室
15	乳業メーカー関与が母乳育児阻害因子となる・母乳分泌遅延に対する対処法

2026 年度講義シラバス（２）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	新生児学Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	小町　詩織	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1 単位（後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	新生児呼吸障害の病態の理解				
講義計画	種々の新生児呼吸障害の成因・病態・経過・診断・管理法について				
達成目標	1. 新生児期に特有な呼吸障害について病態を踏まえて説明できる。 2. 新生児呼吸管理法を自ら行うことができる。				
教科書・参考書	Assisted Ventilation of the Neonate				
準備学習(予習・復習・時間)	新生児特有の呼吸状態を学んでおく。 1 時間				
成績評価法	筆記・口頭試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	新生児学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	胎児期の呼吸器の発育・肺成熟度評価
2		2	RDS・人工サーファクタント
3		3	TTN・MAS
4		4	空気遮断・無呼吸発作
5		5	慢性肺疾患・肺の形成異常
6		6	先天性食道閉鎖・横隔膜ヘルニア
7		7	Dry lung syndrome・呼吸機能評価
8		8	新生児期管内挿管
9		9	IMV・HFO・様々な換気法(PTV 等)
10		10	Lung protective policy・人工換気と循環
11		11	気道損傷の予防・気道吸引法・肺理学療法
12		12	体位性ドレナージ・気管切開
13		13	NO 吸入療法・ECMO
14		14	呼吸器疾患と薬物療法
15		15	テオフィリン・ステロイド吸入療法

2026 年度講義シラバス（３）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	一般小児科学Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	清水 直樹	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	小児の栄養、小児保健を理解できる。				
講義計画	小児の栄養、栄養所要量、小児保健全体について学習する。				
達成目標	1. 小児の栄養、栄養所要量について理解する。 2. 小児保健全体、学校保健について理解する。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期それぞれの時期での必要な栄養について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	一般小児科学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	小児栄養の意義	1	
2	栄養素の代謝:糖質代謝	2	
3	栄養素の代謝:脂質代謝	3	
4	栄養素の代謝:蛋白質代謝	4	
5	小児の栄養所要量:水分	5	
6	小児の栄養所要量:エネルギー	6	
7	小児の栄養所要量:蛋白質	7	
8	小児の栄養所要量:脂質・糖質	8	
9	ビタミン欠乏症・過剰症	9	
10	新生児マススクリーニング	10	
11	乳幼児健康調査・健康診断	11	
12	学校保健	12	
13	心臓検診	13	
14	腎臓検診	14	
15	小児保健統計	15	

2026 年度講義シラバス（４）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	一般小児科学Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	川口　敦	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	小児の成長・発達・成熟および発育の概念と定義を理解する。				
講義計画	小児期特有の発達、成長、発育を理解した上で、病的な状態を学習する。				
達成目標	1. 基本的な小児の発育に関する因子を理解できる。 2. 基本的な小児の身体構成と年齢的変化を理解、発表できる。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	正常な小児の成長、発育について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	一般小児科学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	発育期の分類
2		2	発育の一般原則
3		3	遺伝因子・環境因子
4		4	胎児の発育
5		5	成長:体重・身長・頭囲
6		6	歯の成長
7		7	骨年齢
8		8	体脂肪
9		9	体水分量
10		10	骨格筋
11		11	成長の評価:身体計測
12		12	発育指数
13		13	成長曲線
14		14	成長速度曲線
15		15	青年期の身長・体重の変化

2026 年度講義シラバス（５）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	小児血液学Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	長江 千愛	担当教員連絡先	PHS 71-8108		
単位数	2 単位（前期 1･後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	症例に基づき小児の血液疾患の病態を理解する				
講義計画	種々の小児の血液疾患の症例を通して病態を理解し、治療方針および管理方法を検討する。				
達成目標	1. 基本的な小児の血液疾患について論理的に診断、鑑別できる。 2. 基本的な小児の血液疾患について病態に基づいた治療方針が立てられる。				
教科書･参考書	別途指示する。				
準備学習(予習･復習･時間)	小児期の血液疾患の特徴を学習準備する。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定･学位授与の方針との関連性	小児科血液学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	造血のしくみ - 1	1	止血のしくみ - 1
2	造血のしくみ - 2	2	止血のしくみ - 2
3	造血のしくみ - 3	3	止血のしくみ - 3
4	造血のしくみ - 4	4	止血のしくみ - 4
5	造血のしくみ - 5	5	止血のしくみ - 5
6	小児の赤血球系疾患 - 1	6	小児の出血性疾患 - 1
7	小児の赤血球系疾患 - 2	7	小児の出血性疾患 - 2
8	小児の赤血球系疾患 - 3	8	小児の出血性疾患 - 3
9	小児の赤血球系疾患 - 4	9	小児の出血性疾患 - 4
10	小児の赤血球系疾患 - 5	10	小児の出血性疾患 - 5
11	小児の赤血球系疾患 - 6	11	小児の出血性疾患 - 6
12	小児の赤血球系疾患 - 7	12	小児の血栓性疾患 - 1
13	小児の赤血球系疾患 - 8	13	小児の血栓性疾患 - 2
14	小児の赤血球系疾患 - 9	14	小児の血栓性疾患 - 3
15	小児の赤血球系疾患 - 10	15	小児の血栓性疾患 - 4

2026 年度講義シラバス（６）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	小児神経疾患			必修/選択	必修
担当教員	岩﨑　俊之	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	2 単位（前期 1･後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	症例に基づき小児の神経疾患の病態を理解する				
講義計画	小児の神経疾患の症例を通して神経系の発達、病態を理解し、診断、治療、管理方法を考えていく。				
達成目標	1．基本的な小児神経疾患について診断、鑑別ができる。 2．それに伴う治療方針が立てられる。				
教科書･参考書	別途指示する。				
準備学習(予習･復習･時間)	正常な神経発達について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定･学位授与の方針との関連性	小児神経疾患の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	小児の神経系の発達 － 1	1	小児のけいれん性疾患 － 1（慢性疾患）
2	小児の神経系の発達 － 2	2	小児のけいれん性疾患 － 2
3	小児の神経系の発達 － 3	3	小児のけいれん性疾患 － 3
4	小児の神経系の発達 － 4	4	小児のけいれん性疾患 － 4
5	小児の神経系の発達 － 5	5	小児のけいれん性疾患 － 5
6	小児の神経系の発達 － 6	6	神経皮膚症候群 － 1
7	小児のけいれん性疾患 － 1（急性疾患）	7	神経皮膚症候群 － 2
8	小児のけいれん性疾患 － 2	8	神経皮膚症候群 － 3
9	小児のけいれん性疾患 － 3	9	神経皮膚症候群 － 4
10	小児のけいれん性疾患 － 4	10	神経皮膚症候群 － 5
11	小児のけいれん性疾患 － 5	11	筋緊張低下児 － 1
12	小児のけいれん性疾患 － 6	12	筋緊張低下児 － 2
13	小児のけいれん性疾患 － 7	13	筋緊張低下児 － 3
14	小児のけいれん性疾患 － 8	14	筋緊張低下児 － 4
15	小児のけいれん性疾患 － 9	15	筋緊張低下児 － 5

2026 年度講義シラバス（７）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	感染症学			必修/選択	必修
担当教員	勝田 友博	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1 単位（前期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な感染症の病態を理解する				
講義計画	種々の基本的な感染症疾患を病態を通して理解し治療法を検討する				
達成目標	1.基本的な感染症疾患について病態を理解し、論理的に説明できる 2.基本的な感染症疾患の病態に基づいた治療を計画できる				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に特有な感染症について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児感染症学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	感染症概論	1	
2	臓器別感染症Ⅰ（ 中枢神経、呼吸器 ）	2	
3	臓器別感染症Ⅱ（ 消化器、肝胆道系 ）	3	
4	臓器別感染症Ⅲ（ 循環器、腎泌尿器 ）	4	
5	臓器別感染症ⅳ（ 運動器、皮膚、その他）	5	
6	特殊な状況下での感染症	6	
7	細菌感染症Ⅰ	7	
8	細菌感染症Ⅱ	8	
9	細菌感染症Ⅲ	9	
10	細菌感染症Ⅳ	10	
11	ウイルス感染症Ⅰ	11	
12	ウイルス感染症Ⅱ	12	
13	ウイルス感染症Ⅲ	13	
14	ウイルス感染症Ⅳ	14	
15	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア	15	

2026 年度講義シラバス（８）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	ワクチン学			必修/選択	必修
担当教員	勝田友博	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1 単位（後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	各種予防接種（ワクチン）について理解する				
講義計画	各種予防接種（ワクチン）の効果、副反応等を理解し接種計画を立てる				
達成目標	1.各種予防接種（ワクチン）の接種時期、効果、副反応等を説明できる 2.ワクチンの基本的な手技ができる。基礎疾患のある児への対応について説明できる。				
教科書・参考書	予防接種の手引き（近代出版）				
準備学習(予習・復習・時間)	予防接種とは何かを学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	ワクチンの知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	予防接種の概要
2		2	予防接種のリスクマネジメント
3		3	疾患とワクチン ①（麻疹）
4		4	疾患とワクチン ②（風疹）
5		5	疾患とワクチン ③（DTP）
6		6	疾患とワクチン ④（ポリオ）
7		7	疾患とワクチン ⑤（BCG）
8		8	疾患とワクチン ⑥（日本脳炎）
9		9	疾患とワクチン ⑦（インフルエンザ）
10		10	疾患とワクチン ⑧（ムンプス）
11		11	疾患とワクチン ⑨（水痘）
12		12	疾患とワクチン ⑩（A 型、B 型肝炎）
13		13	疾患とワクチン ⑪（Hib、肺炎球菌、他）
14		14	基礎疾患のある児への予防接種
15		15	予防接種と関連する法律

2026 年度講義シラバス（９）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	小児循環器病学Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	麻生 健太郎	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	小児科領域における基本的な心疾患の病態を理解する				
講義計画	先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。				
達成目標	1. チアノーゼ性先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。 2. 非チアノーゼ性先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	先天性心疾患について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児循環器病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	チアノーゼ性心疾患の診断 1	1	
2	チアノーゼ性心疾患の診断 2	2	
3	チアノーゼ性心疾患の診断 3	3	
4	チアノーゼ性心疾患の管理 1	4	
5	チアノーゼ性心疾患の管理 2	5	
6	チアノーゼ性心疾患の管理 3	6	
7	非チアノーゼ性心疾患の診断 1	7	
8	非チアノーゼ性心疾患の診断 2	8	
9	非チアノーゼ性心疾患の診断 3	9	
10	非チアノーゼ性心疾患の診断 4	10	
11	非チアノーゼ性心疾患の診断 5	11	
12	非チアノーゼ性心疾患の管理 1	12	
13	非チアノーゼ性心疾患の管理 2	13	
14	非チアノーゼ性心疾患の管理 3	14	
15	非チアノーゼ性心疾患の管理 4	15	

2026 年度講義シラバス（１０）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	小児循環器病学Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	麻生 健太郎	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	小児科領域における基本的な心疾患の病態を理解する				
講義計画	小児期の不整脈および後天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。				
達成目標	1. 小児期不整脈の診断と管理を症例に基づいて説明できる。 2. 後天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	小児の循環器疾患の基礎を学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児循環器病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	新生児不整脈総論 1
2		2	新生児不整脈総論 2
3		3	新生児不整脈各論 1
4		4	新生児不整脈各論 2
5		5	小児期不整脈総論 1
6		6	小児期不整脈総論 2
7		7	小児期不整脈各論 1
8		8	小児期不整脈各論 2
9		9	後天性心疾患総論 1
10		10	後天性心疾患総論 2
11		11	後天性心疾患各論 1
12		12	後天性心疾患各論 2
13		13	後天性心疾患各論 3
14		14	後天性心疾患各論 4
15		15	後天性心疾患各論 5

2026 年度講義シラバス（１１）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	小児内分泌・代謝学Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	清水 直樹	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	2単位（前期1、後期1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	小児期に発症する内分泌・代謝疾患の基礎的事項と問題点を理解する				
講義計画	小児における内分泌・代謝疾患の病態を理解し、管理方法について検討する				
達成目標	1. 基本的な内分泌・代謝疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な内分泌・代謝疾患の病態に基づいた管理を計画できる				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期の代謝、内分泌疾患にはどのようなものがあるか学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児内分泌・代謝学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	総論 1：ホルモンとその作用について	1	各論 10：性分化異常症
2	総論 2：小児の成長とホルモンの関係	2	症例検討会①
3	総論 3：マス・スクリーニングについて	3	各論 11：水・電解質異常
4	総論 4 ：内分泌・代謝疾患と遺伝学	4	各論 12：骨代謝異常
5	総論 5 ：負荷試験の実際	5	各論 13：染色体・遺伝子異常疾患
6	特集抄読会 ：内分泌・代謝班	6	各論 14：小児糖尿病の疫学・病態
7	各論 1：視床下部・下垂体ホルモン	7	各論 15：1型糖尿病・2型糖尿病
8	各論 2：成長ホルモンと関連疾患	8	各論 16：インスリン治療・その他
9	各論 3：汎下垂体機能低下症	9	各論 17：小児メタボリックシンドローム
10	各論 4：甲状腺ホルモンの作用と調節	10	各論 18：高脂血症・高尿酸血症
11	各論 5：先天性甲状腺機能低下症	11	各論 19：低血糖をきたす疾患
12	各論 6：自己免疫性甲状腺疾患	12	各論 20：高アンモニア・乳酸血症
13	各論 7：副腎の構造とホルモンの作用	13	症例検討会②
14	各論 8：先天性副腎過形成症	14	総括・復習 1：
15	各論 9：ゴナドトロピンと性腺ホルモン	15	総括・復習 2：

2026 年度講義シラバス（１２）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	小児悪性腫瘍Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	森　鉄也	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	2 単位（前期 1･後期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	主な小児悪性腫瘍疾患について病態、診断方法、治療法を理解する。				
講義計画	小児悪性腫瘍の症例を通して、病態、診断、治療について検討する。				
達成目標	1.　代表的な小児悪性腫瘍を診断できる。 2.　代表的な小児悪性腫瘍の治療方針を立てることができる。 3.　小児に対する化学療法について修得する。 4.　化学療法の急性および慢性の合併症に対する予防と対策について修得する。				
教科書･参考書	別途指示する。				
準備学習(予習･復習･時間)	小児期に多い悪性腫瘍を学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義中の受講態度、発言による総合評価				
卒業認定･学位授与の方針との関連性	小児悪性腫瘍学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	小児悪性腫瘍の疫学	1	小児悪性リンパ腫の疫学
2	小児悪性腫瘍の遺伝学	2	小児悪性リンパ腫の病態
3	小児急性リンパ性白血病の病態	3	小児悪性リンパ腫の診断
4	小児急性リンパ性白血病の診断方法	4	小児悪性リンパ腫の治療
5	小児急性リンパ性白血病の治療	5	小児悪性腫瘍の遺伝子診断
6	小児急性骨髄性白血病の病態	6	小児悪性腫瘍の免疫診断
7	小児急性骨髄性白血病の診断方法	7	小児悪性腫瘍の病理診断
8	小児急性骨髄性白血病の治療	8	小児悪性腫瘍における細菌感染症
9	化学療法の実際	9	小児悪性腫瘍におけるウイルス感染
10	化学療法の急性毒性	10	小児悪性腫瘍における真菌感染症
11	化学療法の晩期障害	11	小児悪性腫瘍患者の栄養管理
12	小児慢性白血病の病態･診断･治療	12	小児悪性腫瘍患者の感染予防
13	小児悪性固形腫瘍の病態	13	小児悪性腫瘍患者の輸血
14	小児悪性固形腫瘍の診断	14	小児悪性腫瘍患者の緩和医療
15	小児悪性固形腫瘍の治療	15	小児悪性腫瘍患者の疼痛対策

2026 年度講義シラバス（１３）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	小児腎臓病学Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	三浦　慎也	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	2 単位（前期 1･後期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	症例に基づき腎臓･泌尿器疾患の病態と集学的治療を理解する				
講義計画	腎臓･泌尿器の解剖･組織、生理学を理解した上で、症例に基づき代表的な腎臓･泌尿器疾患の病態と治療を学習する。				
達成目標	1. 基本的な小児の腎臓･泌尿器疾患についての診断･鑑別ができる。 2. 基本的な小児の腎臓･泌尿器疾患について集学的治療方針が立てられる。				
教科書･参考書	別途指示する。				
準備学習(予習･復習･時間)	小児期の腎臓病の特徴を学習しておく。 1 時間				
成績評価法	双方向性の講義を計画しており、講義への関与･貢献度（積極発言を含む）で評価したい				
卒業認定･学位授与の方針との関連性	小児腎臓病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	腎臓･泌尿器の発生学 － 1	1	腎生検の適応と臨床評価 － 1
2	腎臓･泌尿器の発生学 － 2	2	腎生検の適応と臨床評価 － 2
3	先天性腎泌尿器疾患の種類と病態と集学的治療 － 1	3	腎･泌尿器感染症の診断と治療 － 1
4	先天性腎泌尿器疾患の種類と病態と集学的治療 － 2	4	腎･泌尿器感染症の診断と治療 － 2
5	先天性腎泌尿器疾患の種類と病態と集学的治療 － 3	5	検尿データが読める － 1
6	腎臓･泌尿器の正常組織 － 1	6	検尿データが読める － 2
7	腎臓･泌尿器の正常組織 － 2	7	学校検尿の判定と評価 － 1
8	腎臓疾患の病理像 － 1	8	学校検尿の判定と評価 － 2
9	腎臓疾患の病理像 － 2	9	乳幼児ARFの病態の理解 － 1
10	腎臓疾患の病理像 － 3	10	乳幼児ARFの病態の理解 － 2
11	糸球体機能と尿細管機能とその検査法 － 1	11	乳幼児CRFの病態の理解 － 1
12	糸球体機能と尿細管機能とその検査法 － 2	12	乳幼児CRFの病態の理解 － 2
13	小児水･電解質代謝とその異常 － 1	13	小児輸液療法の理論と実際 － 1
14	小児水･電解質代謝とその異常 － 2	14	小児輸液療法の理論と実際 － 2
15	小児水･電解質代謝とその異常 － 3	15	小児輸液療法の理論と実際 － 3

2026 年度講義シラバス（１４）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	小児アレルギー学			必修/選択	必修
担当教員	清水 直樹	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	2単位（前期 1・後期 1）	履修年次	2年		
テーマと目的	小児アレルギー疾患（食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息）の病態、症状、治療を学習し、外来フォローの仕方、環境との関係、家族への対処を学ぶ				
講義計画	小児呼吸器の特性とアレルギーのメカニズムを理解し、各疾患の治療を理解する。				
達成目標	1．食物アレルギーの診断、食事・栄養指導ができる。 2．アトピー性皮膚炎、気管支喘息の診断、治療ができる。 3．外来フォロー、親の心理的負担などを理解し、家族への対処ができる。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期のアレルギー疾患で多いものと、アレルギーという概念を学習しておく。 1 時間				
成績評価法	講義の理解度、積極性などを総合して評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児アレルギーの知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	アレルギーのメカニズム － 1	1	小児喘息と環境 － 1
2	アレルギーのメカニズム － 2	2	小児喘息と環境 － 2
3	アレルギーのメカニズム － 3	3	小児喘息の外来フォロー － 1
4	アレルギーの検査 － 1	4	小児喘息の外来フォロー － 2
5	アレルギーの検査 － 2	5	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン － 1
6	食物アレルギー － 1	6	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン － 2
7	食物アレルギー － 2	7	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン － 3
8	アトピー性皮膚炎 － 1	8	食物アレルギーの外来フォロー － 1
9	アトピー性皮膚炎 － 2	9	食物アレルギーの外来フォロー － 2
10	アレルギー性鼻炎 － 1	10	One airway,one disease とは － 1
11	アレルギー性鼻炎 － 2	11	One airway,one disease とは － 2
12	外用薬の使用法	12	アレルギー児を持つ家族 － 1
13	抗アレルギー薬の使用法	13	アレルギー児を持つ家族 － 2
14	食物負荷試験の実際 － 1	14	アレルギー疾患今後の展望 － 1
15	食物負荷試験の実際 － 2	15	アレルギー疾患今後の展望 － 2

2026 年度講義シラバス（１５）

講義コード		専攻分野	小児科学		
講義題目	小児科実習			必修/選択	必修
担当教員	長江 千愛	担当教員連絡先	PHS 71-8108		
単位数	1単位（前期・後期）	履修年次	1年		
テーマと目的	小児に対する実技を習得する				
講義計画	検査や手技の実技、実習を実際の検査などを通じて行う				
達成目標	必要な検査・手技を正確に、患児に負担なく実施できる。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	小児科特有の手技について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	実技の習得、到達度				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児科の知識に基づき各種実習を行い、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	小児診察法 - 1	1	乳幼児健診 － 1
2	小児診察法 － 2	2	乳幼児健診 － 2
3	小児診察法 － 3	3	乳幼児健診 － 3
4	小児診察法 － 4	4	心臓カテーテル検査 － 1
5	小児診察法 － 5	5	心臓カテーテル検査 － 2
6	小児の採血と点滴の手技 － 1	6	心臓カテーテル検査 － 3
7	小児の採血と点滴の手技 － 2	7	脳波所見の読み方 － 1
8	小児の採血と点滴の手技 － 3	8	脳波所見の読み方 － 2
9	小児の髄液採取の手技	9	脳波所見の読み方 － 3
10	小児の骨髄液採取の手技	10	予防接種の実際 － 1
11	小児救急 － 気管内挿管の手技	11	予防接種の実際 － 2
12	小児救急 － 心肺蘇生法	12	予防接種の実際 － 3
13	小児救急 － ハイムリック法	13	腎生検の実際 － 1
14	新生児蘇生 － 1	14	腎生検の実際 － 2
15	新生児蘇生 － 2	15	腎生検の実際 － 3

2026 年度講義シラバス（１６）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	小児循環器病学Ⅲ			必修/選択	選択
担当教員	麻生 健太郎	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	小児科領域における基本的な心疾患の病態を理解する				
講義計画	先天性心疾患の出生前診断および出生後の管理を理解する				
達成目標	1．先天性心疾患の出生前診断について症例に基づいて説明できる。 2．出生後の管理、治療方針を症例に基づいて計画できる。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に特有な心疾患について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児循環器病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	出生前診断総論 1	1	
2	出生前診断総論 2	2	
3	出生前診断各論 1	3	
4	出生前診断各論 2	4	
5	出生前診断各論 3	5	
6	出生後管理総論 1	6	
7	出生後管理総論 2	7	
8	出生後管理各論 1	8	
9	出生後管理各論 2	9	
10	出生後管理各論 3	10	
11	出生前治療総論	11	
12	出生前治療各論	12	
13	出生後治療総論	13	
14	出生後治療各論 1	14	
15	出生後治療各論 2	15	

2026 年度講義シラバス（１７）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	免疫学			必修/選択	選択
担当教員	勝田 友博	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1 単位（前期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	原発性免疫不全症候群の基本を理解する				
講義計画	症例を通して、原発性免疫不全症候群は易感染性を呈する症状から診断を疑い、種々の生化学検査によって確定診断へと導く				
達成目標	1.原発性免疫不全症候群診断のアプローチができる 2.原発性免疫不全症候群患者の感染のコントロールと治療が説明できる				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	免疫不全とは何か学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児免疫学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	原発性免疫不全症の分類	1	
2	原発性免疫不全症の診断	2	
3	原発性免疫不全症の治療	3	
4	原発性免疫不全症患者の感染コントロール	4	
5	各論 ①（複合型免疫不全症）	5	
6	各論 ②（抗体不全免疫不全症）	6	
7	各論 ③（他に大きな欠損を付随した免疫不全症）	7	
8	各論 ④（食細胞系異常）	8	
9	各論 ⑤（補体因子欠損症）	9	
10	各論 ⑥（その他の免疫不全症）	10	
11	各論 ⑦（HIV）	11	
12	各論 ⑧（ウイルス感染と続発性免疫不全）	12	
13	各論 ⑨（薬物）	13	
14	自己免疫とリウマチ性疾患総論	14	
15	自己免疫とリウマチ性疾患各論	15	

2026 年度講義シラバス（１８）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	新生児学Ⅲ			必修/選択	選択
担当教員	北東　功	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1 単位（前期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	低出生体重児・早産児の管理				
講義計画	低出生体重児の総合管理について学ぶ				
達成目標	1. 適切な・輸液・栄養管理について理解する 2. 中枢神経保護について理解する 3. 親子関係について理解する 4. 適切な哺育環境の整備について理解する				
教科書・参考書	Avery,Fletcher,MacDonald:Neonatology				
準備学習(予習・復習・時間)	低出生体重児の特徴を学習しておく。 1 時間				
成績評価法	口頭試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	新生児学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　　(出席㊞)
1	低出生体重児の水分代謝・不感蒸泄と腎機能
2	腎の Na 維持能力・超低出生体重児の高 K 血症
3	母乳による低出生体重児の哺育・未熟児骨代謝性疾患の管理
4	中心静脈カテーテル挿入法・高カロリー輸液・栄養状態の評価
5	新生児脳障害の理解・低酸素性虚血性脳症の管理
6	新生児頭蓋内出血への対処・低出生体重児の脳室内出血の予防
7	脳室周囲白質軟化症
8	中枢神経奇形への対処
9	成熟度評価・発達評価
10	NICU 入院児の親の心理・母子分離下の母乳育児
11	親参加型ケアとは・タッチケア
12	カンガルーケア
13	NICU 環境の整備・新生児へのなだめ
14	音環境・光環境・温度環境
15	新生児行動評価・ストレスサイン・ポジショニング

2026 年度講義シラバス（１９）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	小児血液学Ⅱ			必修/選択	選択
担当教員	山下 敦己	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	症例に基づき小児の輸血感染症の病態を理解する				
講義計画	種々の小児の輸血感染症の症例を通して病態を理解し、治療方針および管理方法を検討する。				
達成目標	1. 基本的な小児の輸血感染症について論理的に診断、鑑別できる。 2. 基本的な小児の輸血感染症について病態に基づいた治療方針が立てられる。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	輸血感染症にはどのようなものがあるか学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児血液学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	HBV - 1
2		2	HBV - 2
3		3	HBV - 3
4		4	HBV - 4
5		5	HBV - 5
6		6	HCV - 1
7		7	HCV - 2
8		8	HCV - 3
9		9	HCV - 4
10		10	HCV - 5
11		11	HIV - 1
12		12	HIV - 2
13		13	HIV - 3
14		14	HIV - 4
15		15	HIV - 5

2026 年度講義シラバス（２０）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	小児救急・集中治療医学			必修/選択	選択
担当教員	清水 直樹	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	小児救急・集中治療医学の基礎から応用までを学ぶ				
講義計画	呼吸生理学・小児麻酔学の基本から、臨床応用実践、研究の動機づけまで教授する				
達成目標	1．正常と疾病での呼吸生理、小児麻酔の基本精神である医療安全を理解する 2．小児救急・集中治療の見識に加え、アドボカシーや生命倫理の重要性を理解する				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	Nunn’s Applied Respiratory Physiology, Roger’s Pediatric Intensive Care Care 3 時間				
成績評価法	講義の理解度、積極性				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児救急・集中治療学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	呼吸生理学（正常肺）	1	
2	呼吸生理学（疾患肺）	2	
3	小児麻酔と医療安全・危機管理	3	
4	小児救急医学と蘇生科学	4	
5	トリアージ・搬送医療・救急医療体制	5	
6	アドボカシー・傷害防止・虐待対応	6	
7	小児集中治療医学総論	7	
8	呼吸不全と集中治療	8	
9	循環不全と集中治療	9	
10	意識障害と集中治療	10	
11	肝腎不全と集中治療	11	
12	体外式膜型人工肺（ECMO）	12	
13	ECMO 管理下の特殊病態生理	13	
14	新興再興感染症・災害医療と集中治療	14	
15	脳機能停止と終末期医療	15	

2026 年度講義シラバス（２１）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	小児内分泌・代謝学Ⅱ			必修/選択	選択
担当教員	清水 直樹	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	小児期に発症する特殊な内分泌・代謝疾患を理解し診断・管理能力を身につける				
講義計画	小児における特殊な内分泌・代謝疾患を知り、病態・診断法・管理について検討する				
達成目標	1. 比較的稀な内分泌・代謝疾患について病態と遺伝学的特徴について理解する 2. 特殊な内分泌・代謝疾患の診断方法と病態に基づいた管理を計画できる				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に多い内分泌、代謝疾患を学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児内分泌・代謝学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1		1	総論 1：内分泌臓器の発生について
2		2	総論 2：集団検診の役割
3		3	総論 3：遺伝子診断の適応と実際
4		4	総論 4：代謝疾患診断における特殊検査
5		5	総論 5：特殊ミルクによる治療について
6		6	症例検討会 ①
7		7	各論 1：下垂体発生に関わる転写因子
8		8	各論 2：腫瘍性疾患と内分泌異常
9		9	各論 3：自己免疫性多腺性内分泌障害
10		10	各論 4：先天性副腎機能低下症
11		11	各論 5：骨系統疾患
12		12	各論 6：低血糖をきたす代謝異常症
13		13	各論 7：特殊な先天代謝異常症
14		14	各論 8：稀な染色体・遺伝子異常
15		15	総括・復習

2026 年度講義シラバス（２２）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	小児悪性腫瘍Ⅱ			必修/選択	選択
担当教員	森　鉄也	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	主な小児悪性腫瘍疾患について病態、診断方法、治療法を理解する。				
講義計画	小児悪性腫瘍の症例を通して、病態、診断、治療について検討する。				
達成目標	1．代表的な小児悪性腫瘍を診断できる。 2．代表的な小児悪性腫瘍の治療方針を立てることができる。 3．小児悪性腫瘍に対する臨床試験について理解する。 4．小児悪性腫瘍の臨床試験を立案する。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期特有の悪性疾患について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義中の受講態度、発言による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児悪性腫瘍学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	臨床試験の歴史	1	
2	臨床試験の目的	2	
3	標準治療と臨床試験の違い	3	
4	臨床試験の計画方法	4	
5	臨床試験の統計学	5	
6	小児悪性腫瘍の EBM	6	
7	小児悪性腫瘍の国際共同研究	7	
8	小児悪性腫瘍に関わる倫理	8	
9	小児悪性腫瘍のデータ管理	9	
10	小児悪性腫瘍の社会的問題	10	
11	インフォームドコンセントとアセント	11	
12	小児がんのトランスレーショナルリサーチ	12	
13	小児悪性腫瘍の分子標的治療	13	
14	小児悪性腫瘍の新規治療	14	
15	小児悪性腫瘍の免疫療法	15	

2026 年度講義シラバス（２３）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	小児筋疾患			必修/選択	選択
担当教員	岩﨑　俊之	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	症例に基づき小児の神経疾患の病態を理解する				
講義計画	小児の筋疾患の症例を通して神経系の発達、病態を理解し、診断、治療、管理方法を考えていく。				
達成目標	1．基本的な小児筋疾患について診断、鑑別ができる。 2．それに伴う治療方針が立てられる。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期からみられる筋疾患について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児筋疾患の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	筋ジストロフィー － 1
2		2	筋ジストロフィー － 2
3		3	筋ジストロフィー － 3
4		4	筋ジストロフィー － 4
5		5	筋ジストロフィー － 5
6		6	筋ジストロフィー － 6
7		7	筋ジストロフィー － 7
8		8	筋ジストロフィー － 8
9		9	ミトコンドリア脳筋症 － 1
10		10	ミトコンドリア脳筋症 － 2
11		11	ミトコンドリア脳筋症 － 3
12		12	ミトコンドリア脳筋症 － 4
13		13	ミトコンドリア脳筋症 － 5
14		14	ミトコンドリア脳筋症 － 6
15		15	ミトコンドリア脳筋症 － 7

2026 年度講義シラバス（２４）

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	小児腎臓病学Ⅱ			必修/選択	選択
担当教員	三浦　慎也	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	症例に基づき腎臓・泌尿器疾患の病態と集学的治療を理解する				
講義計画	腎臓・泌尿器の解剖・組織、生理学を理解した上で、症例に基づき代表的な腎臓・泌尿器疾患の病態と治療を学習する。				
達成目標	1. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患についての診断・鑑別ができる。 2. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患について集学的治療方針が立てられる。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に多い腎疾患を学習しておく。 1 時間				
成績評価法	双方向性の講義を計画しており、講義への関与・貢献度（積極発言を含む）で評価したい				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児腎臓病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　　(出席㊞)	後期(回)	内　容　(出席㊞)
1	ネフローゼ症候群の病態と診断・治療 － 1	1	
2	ネフローゼ症候群の病態と診断・治療 － 2	2	
3	急性腎炎症候群の病態と診断・治療 － 1	3	
4	急性腎炎症候群の病態と診断・治療 － 2	4	
5	慢性腎炎症候群の病態と診断・治療 － 1	5	
6	慢性腎炎症候群の病態と診断・治療 － 2	6	
7	慢性腎炎症候群の病態と診断・治療 － 3	7	
8	慢性腎炎症候群の病態と診断・治療 － 4	8	
9	乳幼児のARFの病態と診断・治療 － 1	9	
10	乳幼児のARFの病態と診断・治療 － 2	10	
11	乳幼児CRFに対してCAPD・HD腎移植と集学的対応 － 1	11	
12	乳幼児CRFに対してCAPD・HD腎移植と集学的対応 － 2	12	
13	乳幼児CRFに対してCAPD・HD腎移植と集学的対応 － 3	13	
14	腎生検の術者・介助者として研修 － 1	14	
15	腎生検の術者・介助者として研修 － 2	15	